



N響第1コンサートマスター篠崎史紀さんによる プレトーク「マロが語るワルツの魅力」開催



バルナソスホールで1月21日(月)に開かれる「NHK交響楽団第1コンサートマスター篠崎史紀&N響メンバーによるNew Yearコンサート」に、「マロ」の愛称で親しまれている篠崎さん率いる弦楽五重奏が出演します。本公演に先立って、当日の午前中に、篠崎さんによるプレトークが開催されます。

篠崎さんはNHK Eテレ「クラシック音楽館」の案内人を務める

ほか、NHK文化センターが全国各地で開催する教養講座「NHKカルチャー」の講師も務めており、留学したウィーンで培った音楽観や尊敬する作曲家・演奏家への想い、ヴァイオリンへの熱い愛など、さまざまなテーマに沿って語っています。

今回、篠崎さんが取り上げるテーマは、演奏会のテーマでもある「ワルツ」。昨年のインタビューで「そもそもワルツはオーケストラよりもクインテット（五重奏）で演奏されることが多い。ウィーンのスロン文化の発端となったものを、現地のスタイルで再現したい」と話していた篠崎さんが、ワルツの魅力を語りだけでなく、生演奏でもお届けするという贅沢な内容となっています。

本公演のプログラムはワルツの創始者とされるヨーゼフ・ランナーの「モーツァルト党」、ワルツの父と呼ばれるヨハン・シュトラウスⅠ世の「ケッテンブリュッケン・ワルツ」、その息子による「美しく青きドナウ」などを予定しています。チケットは絶賛発売中。プレトークとともに、ぜひお楽しみください。

プレトーク「マロが語るワルツの魅力」

1月21日(月) 10:30～、バルナソスホール／500円

※前売券の販売はありません(当日券のみ)。

※本公演のチケットまたは財団友の会会員証の提示で、入場料が無料となります。

※本公演の詳細は巻末の「事業あんない」をご覧ください。

問 バルナソスホール ☎079-297-1141



姫路文学館で芥川賞作家・宮本輝さんの作品世界に迫る特別展「宮本輝 一人間のあたたかさ、生きる勇気と。」が開催されています。

宮本さんは1947年に神戸市灘区に生まれ、事業家だった父の仕事の都合で愛媛、大阪、富山、尼崎など住まいを転々とする幼少期を送ります。その後も浮き沈みの激しい生活、両親の不和といった複雑な家庭環境の中で救いを求めるように読書に没頭し、大学卒業後、広告代理店勤務を経て作家となりました。

そして1977年に「泥の河」で太宰治賞を、翌年には「螢川」で芥川賞を受賞。その後も「錦繡」「青が散る」「優駿」「ドナウの旅人」といった小説や随筆、紀行・エッセイなどを世に送り出し、2018年10月には文芸誌に足掛け36年連載した自伝的大河小説「流転の海」の完結編「野の春」が刊行され、大きな話題を集めました。

今回の特別展では、決して平坦とは言えなかった宮本さん

姫路文学館で 特別展「宮本輝」好評開催中

のこれまでの生涯を振り返る略年譜の掲示や、映画化もされて宮本輝文学の金字塔となった「泥の河」「螢川」「道頓堀川」の川三部作のコーナーをはじめ、主要作品ごとに展示コーナーが設けられ、16作品分の自筆原稿も並べられています。

また、書斎でくつろぐ宮本さんの写真や執筆に用いた愛用の万年筆、専用の原稿用紙、カメラやペン入れなども展示。さらに吊るされたバナーには宮本さんの作品に出てくる印象的な言葉が「珠玉のフレーズ」として紹介されており、担当学芸員の杉田陽子さんも「気に入った言葉が見つかったら、それを一つの縁として、その言葉が出てくる作品を読んでいただけたら」と話しています。

どの作品からも人間のあたたかさ、生きる勇気が伝わってくる宮本輝ワールド。一見の価値あり、の特別展です。



※詳細は7ページをご覧ください。

問 姫路文学館 ☎079-293-8228